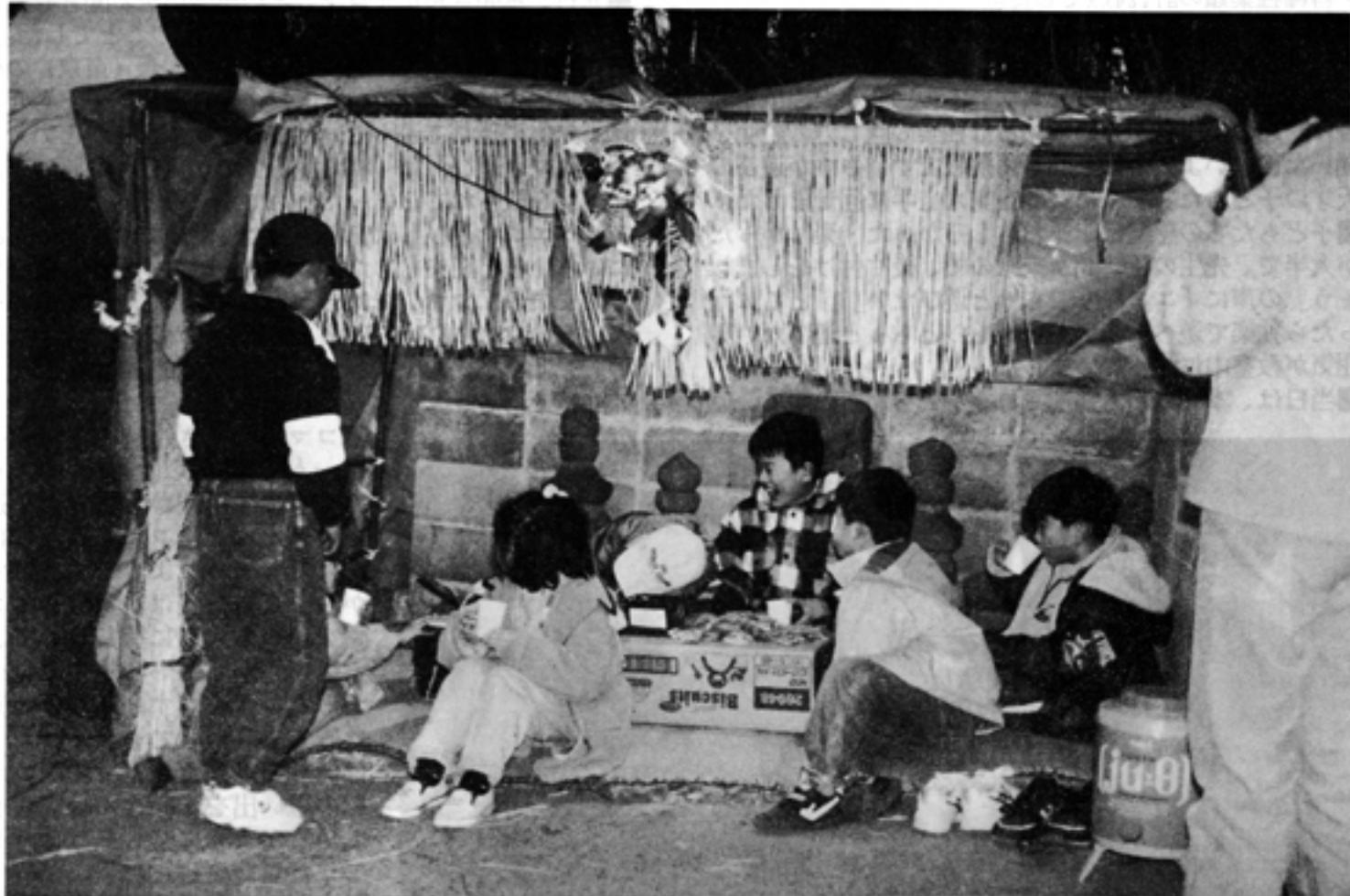




# あなたと博物館

HIRATSUKA CITY MUSEUM

'96 2月号



## 下吉沢下宮下のセエトバライ

今年も1月14日に市内各地でセエトバライが行われました。市内で道祖神を祀る場所はおよそ200ヶ所にものぼります。戦前までは、セエトバライといえば、どこでもお仮屋を立て、子供たちが賽銭集めに回ったり、通行人に御神酒を飲ませたりしたものですが、こうした光景はほとんど見られなくなりました。そうした中で、下吉沢下宮下地区は今でもこうした伝統的なセエトバライを続けている数少ない地区です。

14日の3時になると、地区の人たちが道祖神の所へぼつぼつ集まりだし、大人たちは竹を支柱に使って、手際よく道祖神を囲う小屋を作ります。昔はすべて藁で小屋を葺いたものでしたが、今はビニールシートを覆って簡略化しています。小屋の正面にはクミダレを飾ります。一方、子供たちは六年生の大将（親方）を先頭に、小学生15人が地区の家を一軒一軒、お賽銭を集めに回ります。昔は男の子だけでしたが、10年くらい前からは女の子も参加します。大声で「メリコウ、メリコウ（参りに来いの意）」と唱えると、太鼓を二回叩きます。各家では心地いて、子供たちが来ると、すぐにお金を渡してくれます。地区をひと回りするのに30分くらい

かかりました。

子供たちが賽銭集めをしている間に、大人たちはすでに団子焼きを始めています。皆が火を囲む中、今年小学校にあがる子を連れたお母さんがお重に赤飯を詰めて持参し、ひとりひとりの手のひらに「よろしくお願ひします」と赤飯をのせてくれます。セエトバライは、数え7つの子が子ども仲間に入る日にもなっているのです。

子どもたちは、集まったお金でお菓子などグックを買い、小屋の中に座り込んで、参拝者があると御神酒とグックを売ります。グックの値段は参拝者が任意で決め、賽銭箱にお金を納めます。お賽銭は子どもたちで平等に分けますが、かつては大将が年齢に従って分配していました。子どもたちが小屋で過ごす「お籠り」は、夜8時頃まで続きます。

このように、下宮下では、子どもたちがしっかりとセエトバライの主役を務めて祭が執行されています。また、それほど戸数の多い地区ではないのに、地区中の人々が総動員しているのではないかと思われるくらい、賑やかに祭は行われていました。

## ◆「独楽」の出前はいかがですか？◆

- 1月17日（水）市内中原小学校で2年生の生活科「お正月の遊び」の学習に本間満さんの木地玩具が活躍しました。
- 博物館から中原小学校へ持つて行った木地玩具は、輪投げ・剣玉・だるま落とし（輪抜きだるま）・ヨーヨー・各種独楽類の計124点でした。
- ふだん子どもたちが目にする独楽は大山独楽、プラスチックでできた独楽、金属製の紐巻き独楽くらい。今までに見たことも回したことのない木製独楽が沢山。本間さんや館の担当者からいろいろな独楽の回し方の説明を聞いた後、いよいよ独楽回しに挑戦です。さすが遊びの天才の子どもたちすぐにこつを覚え上手に回せました。
- 子どもたちの感想は、「おもしろかった・楽しかった」が大半で、先生の「時間が来たので、後片付けをしましょう」の声に「エエー、もっと遊びたい」「どこに行ったら独楽で遊べるの？」と、もっともっと遊びたい雰囲気が教室中に漂っていました。
- 当日は、本間さんも参加され、子どもたちの前で、い

いろいろな独楽を回し、拍手喝采を浴びました。

■ところで、平塚に住む私たちが「独楽」と聞くと、すぐ頭に浮かぶのが伊勢原で作られる「大山独楽」ではないでしょうか。また、ちょっと年輩になると、「ベエゴマ」を思いうかべる人も多いと思います。

■先日、本間さんに「コマ」との出会いをお聞きしたら小学校2、3年生の時で、「ベエゴマ」とのことでした。

■当時（昭和10年代初期）お住まいの大森（東京）の小学校では「ベエゴマ遊び」は禁止されていて子どもたちは、先生に隠れて遊んでいたそうです。なぜかというと「ベエゴマ遊び」は一種の博打？で、負ければ勝った人にコマを取られてしまったからです。子どもたちにとって「ベエゴマ遊び」は真剣勝負だったのです。勝つためにいろいろと工夫もしたようです。駄菓子屋から買ってきましたの「コマ」ではどうしても勝つことができません。そのために、いろいろと細工をしたそうです。コマの丈を低くし、頭を六、七、八角形に加工したのだそうです。

■コマをたくさん持っている子は一人で100個以上も持っていたそうです。親から貰った小遣いのほとんどはコマを買うのに消費してしまったようです。ですから子どもたちは机身放さずコマをいつも大事に持ち歩いて、学区を巡回している先生に見つかるとコマを回す「床（とこ）」は置き去りにしても、「コマ」は持って逃げたそうです。コマとの思い出を本間さんは、童心に帰ったように楽しそうに話してくださいました。

■本間さんが平塚市博物館に寄贈された木地玩具関係の資料の総計は1956点になります。内訳は、伝統こけし969本・玩具類827点・工人直筆色紙72枚・木地玩具関係文献等88点です。



（中原小学校2年生の児童と本間さん）

### 《いよいよ公開！平塚市博物館所蔵》

#### 一本間 満木地玩具コレクション

#### 春期特別展 「木のぬくもり」

■会期：平成8年3月2日（土）～4月7日（日）

■特別展開連行事：「大山独楽の製作」実演

：「自分だけの独楽を作ろう＜大山独楽絵付け教室＞」（参加申込制：材料費500円）

実演及び指導：大山独楽製作者 播磨敬太郎さん

開催日：3月24日（日）①10:00～②13:30～

# 博物館の会に参加して

博物館には、様々な会があります。会は博物館の調査研究の成果を広めていく場であるとともに、博物館にとって、会員は一緒に調査研究を行うスタッフでもあります。ここでは、会員たちの声を通して、活動の様子を紹介してみました。

## ★漂着物を拾う会

遠くに冠雪の富士を仰ぎ、海の綺羅に浮かぶ海鳥を見ながら……数々の貝からきれいなサクラガイやクラゲ、タスマニヤからの渡り鳥ハシボソミズナギドリや大きな海亀の死骸、ハングルや中国文字の洗剤容器など……これらを拾って六年目を迎えました。骨格の一部や予期せぬ物体に出会い、そのルーツをたずね経路を辿ることで参加者の興味がかきたてられました。その間初年度の面影はなく著しく後退する海浜の変化には驚きました。

(飯坂保枝)

## ★古代遺跡を探す会

3年前、素人の私をこの会は簡単に受け入れてくれたが、思えばこれが戻であったのか、「古代遺跡を探す会」という大袈裟な名前に隠されたその実態は実に地道な作業であった。遺跡が地中から顔を出すわけもなく、畑に浮き出た土器の破片を拾って、洗净し、拾った場所を地図に落としていくという「遺跡探し」は素人でなくては飽きがきてしまうものであった。それでも現在まで継続してこの作業が行われているのは会の皆さんの熱意(執念)によるものであろう。

こんな「遺跡探し」にも特典がある。現在遺跡に指定されていない地域にも土器の破片は出土する。この出土先がいざれ遺跡として指定され、地図に載せられるのである。自分が見つけた場所に遺跡が眠っていると思うと何か感慨深いものがある。いざれ自分が見つけた場所が発掘され、遺跡が顔を出すのを夢に見ながら会に参加している今日この頃である。(原田典子)

## ★相模川の生い立ちを探る会・地質調査会

私が、博物館の行事に参加させていただくようになったのは、昭和62年に始まった「相模川を歩く会」の第1回からです。河口から水源の山中湖まで遡り、さらにいくつかの支流を含めて再び河口まで歩いた5年間は、参加している毎回が新しい発見の連続でした。その後、2年間は地質班に参加し、相模川流域の地形・地質や化石の学習をし、最終のまとめとして館で発行した「相模川事典」にいくつかの項目について、掲載させていただいたのは、望外のことでありました。

現在は、「相模川の生い立ちを探る会」に参加し、相模川や丹沢、富士山などをフィールドとして学習している他、昨年から始まった「地質調査会」では、平塚市西部の地域で、箱根火山起源の鍵層の標高を確認し、その地域的なずれから隠れた断層を探りだそうとしています。

(西岡克夫)

## ★天体観察会

若い頃から深遠な宇宙に輝く星々に魅せられていたが、仕事の忙しさと調査不足で、身近な所に指導教育していただけた“天体観察会”があることを知りませんでした。残す人生を考え、高年令をも考えず飛び込んでみて、最初はメンバーが若い人々主体であり恥ずかしい気持ちでしたが、今ではほんとうに良かったと思ひます。

年間を通してバラエティーに富んだ月1回の行事も、アッという間に2年を過ぎようとしています。中学生から高年令までと年令範囲は多彩だが、家庭的な雰囲気の中で解らないことを先生はじめ皆さんから教えていただけたので、段々と知識も増し毎月の行事が待ち遠しい今日この頃です。星の世界はまだほんの入り口で、勉強することが沢山ありますが定年後も天体観察会でお世話になり、楽しみながら一生勉強を続けていきたいと思います。若い方、私のように高年令の方で、魅惑に富んだ星空に興味を持たれる方は是非、一緒に望遠鏡で星空を覗いて見ませんか。

(栗山堅二)

## ★石仏を調べる会

石仏の会に入会したのは、昭和58年の4月だった。以来、平成4年の土屋現地調査まで郊外を歩き回り、祖先が遺した石像物を通して、日本人の心を伺うことができた。会員達が行った版下書、製本なども貴重な体験だった。調査後十数年も経過した地区もあるので、新しく作られたもの、無くなつたものなどの再調査を行いたいものだと思っております。

(伊藤宰平)

## ★古文書講読会

リタイア後の人生、如何に生かすべきか種々と模索中、偶々知人の勧めもあり、講読会に参加させていただき、早くも4年、よく続けられたと感謝して居ります。参加当初、先ず三百年も経た、本物の古文書を直接手にした感激を今も忘れません。しかし読む方はさっぱりで、先生のユニークな御指導に、互いに笑われたり、笑ったり、和気藹々の雰囲気で、2時間ではなく、3時間位欲しい気持ちです。

4年前は先輩を含め高齢者が殆どでしたが、最近は学生も参加、若返ってきて嬉しいことです。男性がもっと参加されると良いですが……。御蔭で地元の歴史が少しずつわかつきましたが、まだまだ奥が深いです。欲が出て更に中世、或いは近代へと、夢は広がるばかりです。

(犬丸清彦)

## ■博物館カレンダー■

### 2月の行事予定

3	土	○自然観察ゼミナール 「冬芽入門」 地質調査会（館内）
10	土	古文書講読会 ○漂着物を拾う会（平塚海岸） 天体観察会 「平塚海岸でカノーブスを見よう」
14	水	地質調査会（館内）
17	土	平塚の空襲と戦災を記録する会 ○自然観察ゼミナール 「冬芽入門」
18	日	相模川の生き立ちを探る会 「神廻断層を見る・山北町」 古代遺跡を探す会
21	水	裏打ちの会
23	金	○星を見る会 「冬の星雲と星団」
24	土	古文書講読会
25	日	地質調査会（野外）
29	木	月末休館日

### 3月の行事予定

2	土	特別展「木地玩具展」<至：4月7日> 地質調査会（館内）
9	土	古文書講読会 ○漂着物を拾う会（平塚海岸） 天体観察会「まとめ」
10	日	地質調査会（野外）
13	水	地質調査会（館内）
16	土	平塚の空襲と戦災を記録する会
17	日	相模川の生き立ちを探る会 「東流した相模川・八王子市御殿崎」 古代遺跡を探す会
23	土	古文書講読会
31	日	月末休館日

◎は参加自由 ○は申し込み制 他は会員制

アート作品一般投影：3/3まで

「赤外線の大目玉-すばる望遠鏡-」

寄贈品コーナー：2/1～2/28 〈天文部門〉

「95年度の観測の成果」

3/2～4/1 〈学校教育部門〉

「神奈川の木地玩具」

## ■漂着物を拾う会■

◇海岸に打ち上げられた動物・植物・人工物を集め調べます。

■開催日：2月10日（土）

3月9日（土）

■時間：9:30～11:00

■場所：平塚海岸

■集合：花水川河口平塚側たもと記念碑前

■参加：自由

## ◆星を見る会「冬の星雲と星団を見よう」◆

◇あざやかな冬の星々の間にひそむ星雲や星団たちを望遠鏡で眺めます。

■開催日：2月23日（金）

■時間：19:00～20:00

■場所：平塚市博物館屋上

■集合：平塚市博物館（1階科学教室）

■参加：自由

■備考：曇・雨天時中止

## 「あなたと博物館」3月号のお知らせ

「あなたと博物館」3月号は例年通り『次年度の博物館行事』の案内も含め発行を予定しています。

平成8年度に平塚市博物館で行う体験学習やいろいろな行事への参加要項も掲載します。

## 「あなたと博物館」

定期講読のお知らせ

平塚市博物館の情報紙「あなたと博物館」をご希望の方には直接郵送しています。お申し込みは、住所・氏名・電話番号・ご希望の号（〇年〇月号～〇年〇月号）をお書きの上、80円切手を必要枚数同封して博物館までお送り下さい。「あなたと博物館」は臨時増刊号を含め、年13回の発行を予定しています。

行事に関するお問い合わせは、平塚市博物館 管理係・学芸係 0463-33-5111まで。

あなたと博物館 20巻11号 通巻228号 〇3000 発行 平塚市博物館  
〒254 平塚市浅間町12-41 TEL:0463(33)5111 FAX:0463(31)3949 ※この用紙は再生紙を使用しています